
偽りのメール *未完

さとう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽りのメール * 未完

【Nコード】

N8025X

【作者名】

さとう

【あらすじ】

片思いの相手と正体を偽ってメル友になった女の子の話。

未完の作品。詰まったのでとりあえず上げ。
後日、完成版アップします。

先生の目を欺きながら携帯を操作する。机の影に隠しながらメールの内容を確認し、送信ボタンを押す。

数秒経って、斜め前の彼が携帯を取り出すのがみえた。勿論先生にバレないようにこっそりと。少し悩む仕草をして、ゆっくりと携帯に触れる。そんな動作さえも絵になる彼に見惚れた。

再び彼が授業に参加し始めたとき私の携帯が震える。メールが届いた。

今は授業、と簡潔に書かれた文。それは先程私が送った、今何をしてる？というくだらない質問の答え。そっちは？と書かれた文字を読んで、口許が緩んだ。メールの相手も同じ空間で授業を受けているとは欠片も思っていないのが見て取れる。

気付くはずもない。斜め前にいるメールの相手を見て、安堵と寂しさが混ざった息を吐いた。

私が斜め前の彼、白石くんのメルアドを知ったのは一カ月前。彼の友達である永田くんの誘惑に負けたのが原因だった。

——白石のこと好きなんでしょ

同じ委員会になり、仕事のペアを組んだのがきっかけで永田くんと私は仲良くなった。なかなかいい性格をしている彼に、どうしてか私が白石くんを好きなのがばれてしまい、にやにやと笑いながら「アイツのメルアド教えようか？」の一言。私は思わず頷いた。そして流されるまま永田くんの他校の女友だちとして白石くんに紹介され、メル友になった。

彼とメールを交わすのはドキドキの連続だった。

他校生である私は、白石くんの顔も声も何もかも知らない。たった一通のメールを返すにもよく考えて、何も知らない振りをしなければならぬ。

本当の私は彼の声を聴いては胸を踊らせているというのに。

白石くんを騙してメールをしていることがバレてしまったら、嫌われてしまうかもしれない。そう考えたことは何度もあった。

けど、これしか私が彼と関わりを持つチャンスはないことはたしか。彼にとっての私はいるかないかもはっきりしないただのクラスメイト。したることのある会話といえど、事務連絡だけ。

メールしていればでいれば、文書とはいえ白石くんと多くの言葉を交わす友達になれる。その魅力は何にも代えられないもの。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8025x/>

偽りのメール *未完

2011年11月15日06時41分発行